

『トロンボーンアンサンブルのリハーサル及びコンサート』

《概要》

若手フリーランス奏者の育成のためのコンサートを開催。トロンボーンアンサンブルを通じて、楽曲への理解を深める。私は、経験が不足している若者に対して、彼らが大学で学んだ知識・技術を実際の現場でどの様につなげるか、自分の経験を踏まえてレッスンをしています。

各主要オーケストラの指揮に対するレスポンスの違い、弦・木管楽器のキャラクターやバランスの違いなど、実践的なコメントを交えながら彼らが実際にエキストラで出演した時に、自分の実力を最大限に引き出し、納得のパフォーマンスが出来るようにアドバイスをしています。また、その様な場を提供し、共に学ぶことで私自身も成長することができます。

その彼らとアンサンブルコンサートを開催し、時にはゲストとして、他の楽器の奏者・指揮者と共演することで更に経験値を高めることが出来ます。今は若手の彼らが将来オーケストラの中で委縮することなく、最高のパフォーマンスが出来るようになってもらう為のコンサートを開催します。

《目的・達成したい成果》

コロナの影響により、音楽鑑賞や公演が減少している中で、特に若手のフリー奏者がホールで演奏するチャンスが減ってきています。各オーケストラも振替公演の減少により、エキストラ発注が減っています。

この様な状況の中、10年後日本の音楽業界を支えるであろう若手奏者の育成とモチベーションの向上は我々世代の務めであると考えています。我々が若手だった頃、師や諸先輩方に現場で教えていただいた「技術」「アイデア」「心」を今の若手に繋げたいと思っています。

普段はレンタルスペース等自費で研修会をしています。ホールで聴衆の前で演奏することで更なるモチベーションアップと技術の向上につなげたいと思っています。

《将来の夢》

私が初めてプロのオーケストラに出演した時、一番衝撃を受けたのは、その「空気」でした。私自身の緊張以外に、その場に満ちている息を呑むような張り詰めた何か…これは「観客」として何度ホールに足を運んでも、オーケストラの一員となり、音を出す奏者として参加しないと感ずることができない「空気」なのだと思います。しかし、コロナ禍ということもあり、オンラインが多く、若手がこの「空気」を肌で感じるチャンスを失っていると思うのです。10年後、私は必ず衰えています（トレーニングはしていますが！）が、今一緒に研究会をしている若い仲間が日本のトロンボーン界ならず、日本の音楽界を支えてくれることを願っています。

《その他》

コロナ以前から続けている活動ではありますが、今若手にとって一番必要な取組みだと思っています。コロナが収まり、以前の様にコンサートが戻ってきたときに、今までよりもよいパフォーマンスをしてもらいたい。自信をもって、音楽を奏で楽しんでもらいたいという願いからの活動です。

《プロフィール》

わたなべ よしゆき
渡辺 善行（トロンボーン奏者）

国立音楽大学卒業。第20回日本管打楽器コンクール4位入賞、11歳よりトロンボーンを始める。1大学在学中よりプロのオーケストラ出演などで研鑽を積む。クラシカルオーケストラのみならず、吹奏楽やミュージカルなどの出演も多数。またソリストとしてもオーケストラや吹奏楽団との共演も行う。

東京ニューシティ管弦楽団首席トロンボーン奏者。東京音楽大学講師。神奈川県立弥栄高等学校講師。